

議事録

会議の名称	令和7年度第1回戸田市総合教育会議
開催日時	令和8年1月22日(木) 11時00分 ~ 12時06分
開催場所	戸田市役所 4階 公室
出席者氏名	市長 : 菅原 文仁 教育長 : 戸ヶ崎 勤 委員 : 仙波 憲一 委員 : 木村 雅文 委員 : 長道 修 委員 : 浜田 美咲
出席職員	教育委員会事務局 部長 : 川和田 亨 参事 : 梶山 浩 教育政策室 室長 : 片境 俊貴 担当課長 : 水沼 美和 教育総務課 課長 : 重信 雄太 学務課 課長 : 河西 誠
事務局	市長公室 室長 : 内山 敏哉 主幹 : 本山 翔太 主任 : 坂成 泰宏
欠席者氏名	
議題	(1) 戸田市の教育振興に関する大綱について (2) 戸田市立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について (3) その他
議事内容及び結果	各議題について市長及び担当より説明を行った後、委員と意見交換を行った。
会議の経過	別紙のとおり
会議資料	別添のとおり
傍聴人	5人
議事録調製	坂成 泰宏

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	定刻となりましたので、只今から「令和7年度第1回戸田市総合教育会議」を開催させていただきます。

	はじめに、菅原市長からご挨拶を申し上げます。
市長	<p>皆さんこんにちは。</p> <p>市長の菅原でございます。本日は定例教育委員会が開催される中で、大変お忙しい中、総合教育会議を開催したところ、教育に関わる皆様方には御参加を頂きまして誠にありがとうございます。</p> <p>また、日頃より本市の教育推進に多大なる御貢献、御尽力を承っております事に改めて市長としてお礼を申し上げたいと思います。</p> <p>本日は、2つの議題を予定しており、1つ目は、教育振興に関する大綱について、2つ目が、市立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画についてです。これにつきまして議題を提案させていただいて、皆さんと議論して参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。</p>
事務局	それでは、本日の議題に入らせていただきます。会議の進行につきましては、菅原市長お願いたします。
市長	<p>それでは進行を務めさせていただきます。</p> <p>はじめに、議題（1）「戸田市の教育振興に関する大綱について」です。</p> <p>現在の教育大綱は、策定から5年が経過をしています。基本的には教育に対する思いなど、一番初めにお示しさせていただいた大綱は基本的なもので変わりはないですが、時代が変化をしており、社会情勢等も踏まえましてここで若干改正をさせていただきたいと思っております、今回提案するものであります。</p> <p>ご承知のとおり、教育大綱につきましては、教育振興計画を参酌して策定をしているところです。新年度から始まる新たな第5次教育振興計画につきまして、まずは教育政策室から説明をいただいて、その後大綱について議論していきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。</p> <p>それでは教育政策室の片境室長から「第5次教育振興計画について」の説明をお願いします。</p>
教育政策室	<p>議題（1）教育振興に関する大綱についてご説明いたします。2枚目のカラー刷り資料「第5次教育振興計画（案）」をご覧ください。</p> <p>市長からもお話がありましたとおり、第4次教育振興計画は令和</p>

2年に策定し、本年度で終了となります。そのため、今年度は教育委員会に教育振興計画策定委員会を設置し、検討を進めております。また、計画案の策定にあたっては、10月に市内全小中学校の児童生徒代表から、戸田市の学校や教育施設が今後どうあってほしいかについて発表してもらい、子どもたちの意見を反映する機会も設けました。

内容について説明いたします。まず冒頭上段の「これからの社会の展望と教育の方向性」では、今後の5年間の社会変化を踏まえ、変化が激しく、不確実で複雑かつ曖昧な、いわゆる VUCA の時代にあることを前提として記述しています。

次に「教育理念」についてです。今回は「好きを育み、得意を伸ばす戸田の教育」としております。前回の教育理念は「生き生きと共に育む 教育のまち とだ」で、キャッチフレーズとして「とだっ子 やり抜く力で 未来に夢を」を掲げていました。しかし、両者に重複感があるとの意見があり、わかりにくさを解消するため、今回は教育理念を一本化しました。さらに、子どもたちからの意見として、自分の好きなことや挑戦したいことに取り組める環境づくり、学校外活動や体験活動の充実などが多く挙げられました。子どもたちが自分の「好き」を見つけ育み、「得意」を伸ばしていくことは、これからの社会でも重要であることから、これを教育理念として設定し、そのもとで各施策を進めていく方針です。

続いて、方針1から方針4は個別施策となります。

方針1は主に学校教育を対象とし、「自らの人生を舵取りする社会の担い手となる学びの実現」を掲げています。学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善、グローバル化に対応した英語教育の充実、戸田型 PBL、情報活用能力の向上などを施策としています。また、これらを支える学校の働き方改革、教師の指導力向上、ICT 環境を含む施設整備、中学校給食の無償化なども盛り込んでいます。

方針2は社会教育分野も含め、「誰一人取り残されない教育の実現」に向けた取り組みをまとめています。主な施策として、長年取り組んできたインクルーシブ教育の充実、戸田型オルタナティブ・プランの推進、福祉部門との連携強化などを挙げています。

	<p>方針3はスポーツ・文化・芸術活動の推進を中心とし、部活動の地域展開、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）をはじめとする地域との連携による「社会に開かれた学び」の実現を目指す取り組みをまとめています。</p> <p>方針4は、各施策の基盤となる取り組みです。産官学連携による共同研究、教育政策シンクタンクの位置づけ、施策全体のPBL推進、教育総合データベースの活用、ICT環境整備を含む教育分野のDX推進などを掲げています。</p> <p>最後に、モニタリング指標については、各施策の取り組み状況を把握し、評価・改善につなげるための指標を整理しています。教育委員会だけでなく、市長部局の関係課とも連携し、さまざまなデータをもとに施策の見直しを行っていく考えです。参考資料として、専門用語の解説も掲載しています。</p> <p>以上が、第5次教育振興計画（原案）の説明となります。ご説明は以上でございます。</p>
<p>市長</p>	<p>ただいま、第5次教育振興計画について説明がありました。</p> <p>続いて、教育長から教育振興計画について総括をしていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
<p>教育長</p>	<p>総括というより補足として申し上げます。先ほど室長からの説明と一部重複する部分もありますが、今回の教育理念を見直した理由について説明いたします。</p> <p>まず、大きく二つの理由があります。</p> <p>一つ目は、現行の第4次計画において、教育理念として「生き生きと 共に育む 教育のまち とだ」を掲げ、さらにキャッチコピーとして「とだっ子 やり抜く力で 未来に夢を」を用いてきました。しかし、両者の役割が重複しており、それぞれが目指す方向性が、見方によっては異なるように受け取られる可能性があります。どちらも大切な内容ではありますが、いらぬ誤解を招かないよう、教育理念として統合し、分かりやすい形に整理していきたいという</p>

	<p>のが一つ目の理由です。</p> <p>二つ目は、国の最新の動向を踏まえたものです。私も関わりましたが、昨年 9 月 25 日にまとめられた教育課程、次期学習指導要領の論点整理の方向性を受けるとともに、策定委員会ではこども基本法を踏まえ、子どもの意見を積極的に取り入れることを重視しました。その結果、子どもたちからは多くの意見が寄せられ、大人では考えつかないような発想の意見もありました。</p> <p>それらを踏まえ、「一人ひとりの『好き』（興味・関心）や『得意』を伸ばし、それを学びの原動力として全体の動機づけにつなげること」が、これからの時代の学びの在り方としてより適切であり、子どもたちの思いや願いに一層寄り添う方向性であると判断しました。</p> <p>以上のことから、この教育理念を戸田市の教育の根幹として位置づけ、引き続き全国に先駆けた教育にも積極的に挑戦していきたいと考えています。補足は以上です。</p>
市長	<p>次に、私から教育振興に関する大綱（案）について説明いたします。前回、私の公約である「つくる・守る・繋ぐ」という基本理念を基盤とした施策構造を作成し、取りまとめました。先ほど教育長からもお話がありましたが、令和 5 年 4 月にこども基本法が制定され、子どもたちの意見の重要性やウェルビーイング、社会経済状況の変化、生成 AI などの新たな技術の登場など、子どもたちを取り巻く環境や将来への不透明感が増していると感じています。</p> <p>そのような中で、「不易流行」という言葉がありますが、守るべきものはしっかり守りつつ、新しいものは積極的に取り入れていく姿勢が求められます。教育委員会の新たな振興計画（現時点では案）とも方向性を合わせながら、教育大綱として基本的な構造は変えずに作成したものが、議題 1 の大綱 1～3 ページに記載されております。後ほど皆さまに改めてお示しいたします。</p> <p>今回の大綱では、『共に「はぐくみ・まもり・むすぶ」教育のまち戸田』を基本方針とし、その方針に基づく 6 つの重点目標を掲げています。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 深い学びを生かし、自ら未来を切り拓く力を育みます。

2. ふるさと戸田を愛し、社会に貢献する心を育みます。
3. 多様性を尊重し、誰もが教育を受ける機会を守ります。
4. 安全・安心を確保し、成長を後押しできる活気ある教育環境を守ります。
5. 誕生から中学校卒業まで、子育て支援と教育体制を切れ目なく結びます。
6. 教育の現場と地域の多様な主体を双方向で結びます。

これら6つの重点目標をもとに、教育委員会と市としての取り組みを進めていくという考え方で整理しております。

この5年間で振り返っても、さまざまな出来事がありました。学校の建て替えを進める必要がありましたし、以前は存在しなかった教育総合データベースも整備が進みました。また、文部科学省の関係者や教育分野の第一線で活躍する方々からも戸田市の取り組みが注目されるようになりました。岸田総理大臣が来訪された日もあり、全国的な関心が高まったと感じています。

こうした中で、教育長をはじめ教育委員の皆さまが熱意をもって教育に取り組んでくださり、私自身も「教育日本一」という共通のキーワードを掲げて進めてきたことが、この5年間で形になってきたと実感しています。今回の大綱も、これまでの成果を次につなげる「応援歌」となるような位置づけで作成しています。

もちろん、良いことばかりではありません。SNS上でのトラブルや、いじめの問題、これまでには考えられなかったようなさまざまな課題、保護者との関係、部活動の在り方、受験制度の変化など、子どもたちの将来を考えると、まだ取り組むべき課題は多くあります。戸田市がこれまで積み重ねてきたものを守りつつ、全国の先進事例となるような、地に足のついた教育を進めていくことは決して容易ではありません。しかし、皆で熱意をもって取り組めば、不可能ではないと考えています。今後とも皆さまのお力添えをいただきながら、共に前へ進めればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

私からの説明は以上です。

	<p>それでは、委員の皆さまから忌憚のないご意見をいただければと思います。</p> <p>では、よろしくお願いたします。</p>
委員	<p>質問というより意見として述べさせていただきます。</p> <p>先ほど、教育長や市長から、これまで取り組んでこられた教育施策について振り返りのお話がありましたが、その中で改めて確認させていただきたい点があります。</p> <p>まず、市長として本市の教育をどのように捉えておられるのか、現状をどのように認識しているのかをお伺いしたいと思います。その認識を踏まえ、今後、教育委員会等とどのように連携し、教育政策を実施していくのか、責任者としてのお考えをお聞かせいただきたいと思います。</p>
市長	<p>現在の戸田市の教育についてですが、政府関係者から注目されているという点は確かにあります。しかし、それ以上に強く感じているのは、教員や現場の皆さんのモチベーションが非常に高いということです。やはり、良い教師のもとでこそ良い教育は実現できると考えています。</p> <p>最先端であることや新しいものを導入すること自体が目的ではなく、あくまで地に足のついた形で、教員と子どもたちがしっかり意思疎通し、対話を重ねられる環境を整えることが重要です。そのために必要な機材やシステム、プログラムなどを整備してきました。こうした環境も、意欲ある教員がいてこそ生きるものであり、その点が戸田市ではしっかり機能していると感じていますし、今後もそうした状態を維持・発展させていきたいと考えています。</p> <p>基本的には、学校経営や教室経営が何より大切だと考えていますので、そこをしっかりと応援していきたいと思っています。</p> <p>一方で、子どもの人口は増加から減少へと転じ、出生数も減ってきており、危機感を持っています。私が市長就任時に掲げた「教育で選ばれるまちにしたい」という思い、そして「教育日本一」というキーワードは、まさにその危機感から出発したものです。まだ道半ばではありますが、少しずつ実現に向けて前進しているのではないかと感じています。</p> <p>もちろん、予算の制約もあり、何でもできるわけではありません。しかし、その中でも可能な限り教育委員会を支え、応援していきたいと考えています。以上です。</p>
委員	<p>全国的に不登校児童生徒の増加が課題となる中、さまざまな困難</p>

	<p>を抱える児童生徒が誰一人取り残されない教育を実現することは、極めて重要であると考えています。本市では、戸田型オルタナティブ・プランの推進など、全国的にも注目される先進的な取り組みが進められています。</p> <p>こうした教育委員会の取り組みをさらに充実させていくためには、市長部局を含めた組織横断的な連携が不可欠です。そこで、今後どのような形で支えていくお考えなのか、組織全体を統括する立場からのお考えをお聞かせいただきたいと思ひます。</p>
市長	<p>大変重要なお指摘だと受け止めております。誰一人取り残されない教育、そして困難を抱える子どもたちを教育現場がしっかり支えていくことは、学校現場だけでなく、教育委員会、さらには市長部局を含めた市全体で取り組むべき課題だと考えています。</p> <p>これまで、国の「COCORO プラン」の参考にもなった戸田市のオルタナティブ・プランでは、パレットルームの設置をはじめ、多様な学びの場を市内の学校に整備してきました。年度当初は試行的に始めた取り組みでしたが、現場から「成果が期待できる」という声が多く寄せられたため、9月には補正予算を組んで全校に設置するなど、スピード感をもって進めてきました。その結果、全国的な不登校の傾向とは異なる動きが戸田市で見られるようになっており、非常に特筆すべき成果だと感じています。</p> <p>また、福祉や医療の分野では、医療的ケアが必要な子どもたちの受け入れなど、今後さらに対応が求められる場面が増えていきます。こうした課題は教育委員会だけで完結できるものではなく、市長部局との連携が不可欠です。今後は「チーム戸田市」として、組織横断的に連携しながら、誰一人取り残されない教育の実現に向けて取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>いじめや不登校への対応についても、教育委員会と市長部局が一体となって取り組むことが重要であり、引き続き連携を強化していく考えです。</p>
委員	<p>次の議題にも多少関係しますが、学校における働き方改革について申し上げます。戸ヶ崎教育長を中心に、教育委員会が学校現場と</p>

	<p>連携しながら、さまざまな施策に取り組んでこられました。その成果として、教職員の方々から「以前より働きやすくなってきた」という声を耳にすることがあります。決して改革が進んでいないわけではなく、確実に改善が進んでいると感じています。ただ、「生きがいを感じる」といった声まではまだ十分に聞こえてこないため、今後はそうした面にもつながっていくことを期待しています。</p> <p>こうした取り組みは、日々子どもたちと向き合う教師をはじめ、学校に配置されているさまざまな専門職の方々の存在によって支えられています。多様な専門性をもつ人材が学校に関わってくださっていることで、戸田市の学校教育は非常に充実していると考えています。</p> <p>そこでお伺いしたいのは、戸田市の学校における働き方改革全般を踏まえ、特に部活動の地域展開について、今後どのような視点で環境整備を進めていかれるのかという点です。持続可能な部活動の在り方を実現するために、どのような方向性で取り組みを進めていくお考えなのか、お聞かせいただきたいと思います。</p>
市長	<p>まず、部活動の地域展開についてですが、これまでも専門人材の派遣や企業との連携など、他市に先駆けた先進的な取り組みを進めてきたと考えています。</p> <p>ただ、今後は土日の活動をどうするのか、平日の指導体制をどう確保するのかといった課題があり、現場の教職員の皆さんの意向や、意欲を持って取り組んでいる先生方の存在も踏まえながら、慎重に検討していく必要があります。これまで当たり前とされてきた部活動の在り方を一度分解し、改めて「何が理想なのか」を考え直す段階に来ていると感じています。</p> <p>また、保護者の視点は、自身の中学生時代の経験に基づいて語られることが多く、現在との時代の違いをどう理解していただくかという課題もあります。部活動に対する温度差は非常に大きく、文化部・運動部の違い、好きな子もいれば苦手な子もいるなど、まさに百人百様です。</p> <p>その中で大切なのは、「やりたい」と思う子どもが活動できる環境</p>

	<p>を整えること、そして教員が義務感や負担感ではなく、やりがいを持って関われるようにすることです。保護者の理解も含め、これらのバランスをどう取るかが重要だと考えています。</p> <p>市としては、教育委員会と連携しながら、最も適切な仕組みを整えていく必要があります。もちろん、予算には限りがありますので、すべてを民間に委ねれば理想的なクラブ活動のような環境が整うかもしれませんが、それは現実的ではありません。そのため、現実的な範囲で最適なバランスを模索していくことが求められます。しばらくは過渡期が続くと思いますが、その中で最善の形を考えていきたいと思っています。</p> <p>また、教員の働き方改革については、戸田市は教育委員会の尽力により、専門人材の配置などを積極的に進めてきましたので、こうした取り組みを途切れさせず継続していくことが重要です。さらに、デジタル化やシステムの活用によって業務の効率化を図り、働きやすい環境を整えていくことも大切だと考えています。</p>
委員	<p>教育は学校教育だけではなく方針3にもあるように、部活動以外のスポーツ活動や生涯学習の充実なども重要な教育政策であると考えています、これらの分野について、基本的な方針や、特に力を入れて取り組んでいる点があればお聞かせいただきたいと思ます。</p>
市長	<p>大変重要な視点だと受け止めています。いわゆる生涯学習や社会教育の分野についても、教育委員会ではデジタル化をはじめ、さまざまな取り組みに力を入れていただいています。職員のアイデアも活かされ、この5年間で、市内にある3つの公民館すべてが文部科学省の優良公民館表彰を受けるという、これまでの戸田市にはなかった大きな成果が生まれました。</p> <p>特に、オンライン環境を整備し、誰もが参加しやすい仕組みを構築したことは高く評価されています。また、地域には大学教授や専門家など、最先端で活躍されている方々が多くいらっしゃいます。そうした地域人材を積極的に活用してきた点も、大きな成果につながっていると考えています。</p> <p>今後は、こうした取り組みをより多くの市民の方に知っていただ</p>

	<p>くことが重要です。例えば、市民大学も以前は会場に来なければ受講できませんでしたでしたが、現在はオンデマンドやオンラインで受講でき、自分の都合に合わせて学べるようになっていきます。今後はさらに周知を進め、学びたい人が学べる環境、自己実現につながる環境を整えていきたいと考えています。特に、時間にゆとりのあるシニアの方々にも積極的に活用していただければと思います。</p> <p>一方で、産官学連携の観点では、メディックスやレビズといったスポーツチーム、ボートレース関連団体との協力など、地域資源を活用した取り組みも進めています。市民の皆さんが元気になれるような環境づくりを、教育委員会とともに進めていきたいと考えていますし、それをしっかり支援できる体制づくりも今後の重要な課題だと認識しています。</p>
市長	<p>委員の皆さま、大変貴重なご意見をありがとうございました。</p> <p>それでは、教育大綱につきまして、本日いただいたご意見を参考に、表現やデザイン面も含め、最終的な修正を私の方で加えさせていただきますたいと考えております。よろしいでしょうか。</p>
委員	<p>異議なし。</p>
市長	<p>ありがとうございます。それでは、そのように進めさせていただきます。</p> <p>以上で、議題（1）を終了いたします。</p> <p>続きまして、議題（2）「戸田市立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について」に移ります。</p> <p>それでは、学務課長よりご説明をお願いいたします。よろしくお願ひいたします。</p>
学務課	<p>学務課長の河西でございます。</p> <p>それでは、先ほどご説明のあった「戸田市立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」について、以下「本計画」としてご説明いたします。</p> <p>これまでもさまざまな場面でお伝えしてきましたが、教職員の長時間勤務は大きな課題となっており、質の高い教育を維持するため</p>

には、学校における働き方改革が不可欠です。市長からもご紹介があったとおり、本市では平成 28 年から教育長を中心に働き方改革を進めており、その進捗や方向性については、教育長が国の会議で発言したり、私自身も国や県の研修で実践発表を行うなど、一定の成果を上げてきたところです。

しかし、研修等で他自治体と情報交換をすると、全国的にはなかなか改革が進まない自治体も多く、学校や保護者、地域の理解が得られず前に進めないという状況も見受けられます。こうした背景を踏まえ、国では令和 8 年 4 月 1 日施行で、いわゆる「給特法（公立義務教育諸学校の教育職員の給与等に関する特別措置法）」の改正を行い、働き方改革を後押しする方針が示されました。

給特法の改正に伴い、参考資料の 2 番目に記載のとおり、服務監督権を持つ教育委員会に対し、教職員の業務量管理・健康確保措置を実施するための計画の策定と公表が義務付けられました。

そのため本市でも、これまでの取り組みの成果や課題、学校の現状、教職員の勤務状況などを踏まえ、本計画を作成し、先日の定例教育委員会で承認をいただいたところです。現在策定中の教育振興計画にも働き方改革の項目がありますので、本計画も位置づけていくことを検討しています。

本計画の構成ですが、計画の趣旨及び目的、教職員の現状、目標、目標達成に向けた 4 つの視点、主な詳細の取り組み、フォローアップ、今後の進め方の 7 つの項目で構成しています。

別添資料 3 の概要をご覧ください。これまで本市では「戸田市学校における働き方改革基本方針」を定め、教育の質の維持向上を目的として取り組みを進めてきました。しかし、令和の日本型学校教育を担う質の高い教師の確保に関する答申では、教師を取り巻く環境整備の最終的な目的は「全ての子どもたちへのより良い教育の実現」であると示されています。これを踏まえ、本計画の目的を「学校関係者が一体となって働き方改革を推進し、子どもたちへのより良い教育を実現する」と決めました。

また、目標指標としては、これまでの時間外在校等時間の数値目標に加え、働きがい・働きやすさといったウェルビーイングに関する

	<p>る目標も設定しています。これらを達成するための4つの視点と具体的な取り組みは、本体の計画に記載しています。</p> <p>概要2ページ目をご覧ください。本計画には継続的に取り組む内容や新たに実施する方策を網羅的に記載していますが、これまでの成果と課題を踏まえ、今後特に重点的に進める3つの分野を設定しました。</p> <p>それが「教職員の研修」「メンタルヘルス」「部活動」に関する取り組みです。</p> <p>続いて、資料5の「学校と教師の業務3分類」の新しい整理をご覧ください。保護者からの過剰な要求への対応、ICT環境整備、施設設備の管理など、近年新たに課題として浮上している内容が追加されています。また、学校以外が担うべき業務については、学校外の主体的な参画を促す表現に改められています。</p> <p>資料の最後に添付したのは、文部科学省が働き方改革推進のために作成したリーフレットです。首長部局向けのものには自治体として取り組むべき内容が示されており、地域や保護者向けのものもあります。このほか、教育委員会向け、学校向けのリーフレットも作成されています。</p> <p>戸田市教育委員会としても、給特法改正により総合教育会議での報告が義務付けられていますので、この場を活用して報告するとともに、首長部局との連携を強化し、「チーム戸田市」として子どもたちにより良い教育を実現するため、学校を一層支援してまいりたいと考えております。</p> <p>説明は以上です。</p>
市長	<p>ただいまのご説明内容を踏まえまして、議題に関して委員の皆さまからご意見を頂戴したいと思います。</p>
委員	<p>私からの質問をさせていただきます。</p> <p>資料の1ページ目、「計画の趣旨及び目的」の一番下の部分についてです。今回作成された本計画と、これまでの「戸田市学校における働き方改革基本方針」との関係について伺いたいと思います。</p>

	<p>これまでの基本方針に、今回新たに計画を付け加えた形になると理解していますが、そこには「目的や実効性のある計画を示すとともに、同様の性質であるため統合する」と記載されています。</p> <p>一方で、市長としては、あえて統合しないという判断をされているようにも読み取れます。この点について、何か意図されていることはありますでしょうか。</p> <p>つまり、これまでの基本方針をそのまま残した上で、新たな計画を策定した理由、あるいは基本方針を計画として再整理したものなのか、そのあたりの考え方を伺いたいと思います。</p> <p>また、この計画は4月から施行されることになっており、まさに待たなしの状況です。最終的にどのような形で公表し、市としてどのように位置づけていくのかについてもお聞かせいただければと思います。</p>
市長	<p>まず、教育長が中教審の委員を務めていることもあり、本市は他市に先駆けて「働き方改革基本方針」を定めてきたという経緯があります。こうした取り組みについては国の場でも発言してきましたし、文部科学省としても、教員の人材不足や教育を取り巻く環境の厳しさを踏まえ、しっかりと働き方改革を進めていくべきだという認識が強まっています。</p> <p>そのため、国としてはより網羅的に、細かな点まで見ていく必要があると考えており、今回示された新たな「学校業務の3分類」も、今後さらに重点的に取り組むべき領域を明確にしていく意図があるのだと思います。</p> <p>今回の計画は、これまで戸田市が積み重ねてきた成果を踏まえつつ、文科省が示した方向性と結びつけて統合していくものです。実際のところ、現場でどのように受け止められるかは、しっかり聞いてみないとわからない部分もありますが、現場の負担感が少しでも軽減され、国からの後押しも得ながら、取り組みが定着していくことが期待されます。</p> <p>また、今回の計画は、効率化や業務整理といった観点だけでなく、給特法の改正とも密接に関連しています。そうした制度面の変化と</p>

	<p>もリンクしながら、より実効性のある枠組みになっていくのではないかと私自身も受け止めています。</p>
委員	<p>業務の3分類の中で、「学校以外が担うべき業務」や「教師以外が積極的に参画すべき業務」といった項目が、国の現状の課題を踏まえて見直されています。行政や地域、保護者など、学校以外の主体が担い手となるのが、これまで以上に強調されている点が特徴だと感じています。</p> <p>例えば、本市でも次世代応援ポータルサイト TocoToco や、GPSによる見守りサービスなど、教育委員会以外の部局が子ども向けに実施している事業があります。こうした取り組みは、学校の負担軽減にもつながるものです。</p> <p>今後については、具体的にどのような形で学校外の主体が関わっていけるのか、さらに検討が進むのではないかと思います。地域や行政が担える部分を明確にし、学校と役割分担をしながら、子どもたちを支えていく体制をどのように広げていくかが重要になると考えています。</p>
市長	<p>これまで本市では、子育て支援施策や学校との連携の中で、さまざまな取り組みを進めてきました。見守り防犯カメラの設置や、登校時の児童の見守りなど、他市にはない手厚いサポートを継続してきたところです。最近では、シルバー人材センターの皆さんにもボランティアとして参加していただくなど、学校の負担軽減に一定の貢献ができていると考えています。</p> <p>さらに、子どもの貧困対策や居場所づくりなどの取り組みも進めており、昨年末には次世代応援ポータルサイト「TocoToco」をリリースしました。今後はGPSによる見守りサービスの導入も検討しています。こうした取り組みは、本計画を支援する理由にもなりますし、結果として学校の業務量削減にもつながると期待しています。</p> <p>ただし、これらの施策にはどうしても予算が関わってきますので、財源をどのように確保し、次の段階へ進めていくかを慎重に考える必要があります。また、義務教育の現場でスタッフが確保できないという状況は決してあってはならない問題です。埼玉県、そして戸田市においては、そのような事態が起こらないよう、しっかり</p>

	と取り組んでいきたいと考えています。
委員	<p>この実施計画にあるように、学校における働き方改革は、すべての子どもたちへのより良い教育の実現につながるものだと考えています。</p> <p>これまで菅原市長には、学校の建て替えや教室の施設整備、人的支援のための予算確保など、さまざまな面でご尽力いただき、感謝しております。</p> <p>例えば、戸田南小学校のプールについては、民間委託を行っていますが、教職員・児童・保護者の皆さんから大変好評だと伺っています。</p> <p>今後さらに本市のより良い教育のために、教師が働きやすいと感じられるような学校づくりについて、予算からも人的物的な支援などご協力いただけるようなことがあればお願いしたいです。</p>
市長	<p>はい、わかりました。</p> <p>人的支援について、例えば日本語教育の関係ですが、外国籍の子どもが増えてきていることもあり、来年度に向けて予算に計上し、取り組みを進めていきたいと考えています。</p> <p>また、これまでを振り返ると、学校施設整備については非常に良いタイミングで進めることができたと感じています。戸田東小中の建て替え、戸田第一小の建て替え、新曽小の増築、芦原小の増築、新曽中の整備など、すでに6校ほど取り組んできました。</p> <p>現在は資材価格の高騰により、全国的に公共施設の整備が難しくなっています。近隣では学校の建設費が当初の想定を大きく上回り、入札が成立しない状況もあります。</p> <p>その点、本市ではコロナ禍においても「学校だけは止めない」という方針で整備を進めてきました。結果として、当時の価格で1校ずつ着実に整備できたことは、今振り返ると非常に大きなメリットがあったと感じています。これは教育委員会の皆さまのお力添えがあってこそで、大変良い判断だったと思っています。</p> <p>戸田南小学校についても、入札が3回ほど競り直しになりましたが、最終的に契約が成立し、新しい校舎の整備が進むことになりました。プールについても、敷地が狭く、児童一人当たりの面積が市</p>

	<p>内で最も小さいという課題、さらに給食調理場がないという課題を同時に解決するためには、プールを撤去するしかないという判断に至りました。幸い、近くに民間の水泳施設があり、プール利用の代替が可能であるという地の利もありましたので、結果として良い選択だったと考えています。</p> <p>今後も創意工夫をしながら、学校現場をしっかりとサポートしていきたいと思います。</p> <p>また、教員免許を持つ市職員の学校現場への派遣については、実現できれば非常に良い取り組みになると考えています。まだ実現には至っていませんが、県教育委員会にも認めてもらえるよう、引き続き検討していきたいと思います。</p>
委員	<p>子育て支援についてですが、小学校入学前までは、子育て講座や福祉・保健の相談など、行政が関わる取り組みが多くあります。しかし、小学校に上がると、そうした支援が一気に減ってしまう印象があります。</p> <p>私自身、最近お話を伺って驚いたのですが、放課後のトラブルや習い事の相談、さらには夫婦間の教育方針の違いといった家庭内の悩みまで、担任の先生や学校の管理職に相談しているケースが少なくないそうです。本来であれば、学校だけが担うべきではない部分まで負担がかかっているのではないかと感じています。</p> <p>コロナ以前は、PTA 活動が活発で、子育て相談のような催しもあったと聞いています。しかし、自分の子供が入学したのはコロナ禍で、PTA 活動がほとんど行われていなかったため、そうした機会がどのようなものだったのかもよく分からない状況でした。その結果、小学校に入ってから新たにママ友をつくるのが難しく、社交的な方は良いのですが、そうでない方は孤立してしまうのではないかと感じています。相談できる人がいる家庭と、そうでない家庭の差が広がっているようにも思います。</p> <p>こうした子育てに関する課題は、学校や教師に任せきりにするの</p>

	<p>ではなく、首長部局の関係課も主体的に関わっていくことが重要だと考えています。</p> <p>そのため、この総合教育会議とは別に、教育委員会以外が中心となって、戸田市全体の子育てを考えるような会議体がつくれないかと考えておりますが、いかがでしょうか。</p>
市長	<p>子育てに関する相談の場についてですが、子どもが生まれてから就学前までは、健診の場や子育て講座など、行政に関わる機会が多く、そこでママ友ができたり、公園デビューを通じてつながりが生まれたりします。</p> <p>小学校に入学する際には、幼稚園や保育園でのつながりがそのまま続き、さらにPTAや子ども会といった活動がありました。戸田市では、かつて子ども会が非常に活発で、地域のつながりをつくる大きな役割を果たしていました。しかし、ここ10年ほどで状況が大きく変わり、PTAの解散を選択する学校が出てきたり、子ども会も休止状態になっていたりするところが多くなっています。保育園などで加入を呼びかけても、なかなか参加につながらないという現状があります。</p> <p>こうした状況の中で、行政が相談員を雇って家庭の相談まで担うというのは、少し違和感があります。やはり基本的には、ママ同士・パパ同士のつながりをどうつくっていくかを考えることが重要だと思っています。本来はPTAや子ども会がその役割を果たしてきましたが、今それが機能しなくなっていることは大きな課題です。</p> <p>その一方で、先ほど申し上げた「TocoToco」を立ち上げたことで、親同士がつながれる居場所が市内に20カ所以上生まれています。子ども食堂や居場所づくりの場も、「困難な家庭の子だけが行く場所」ではなく、行けば何か得られる、ママ友ができる、そんな気軽に参加できる場として広がってきています。オンラインの場も含め、こうしたつながりの場を増やしていくことが大切だと考えています。</p> <p>このポータルサイトも、教育委員会からの提案を受けて、市長部局と一緒に立ち上げたものです。非常に意義のある取り組みであり、今後の運用や発展に向けても、教育委員会と市長部局が連携し、「子どもファースト」の視点でどうすれば良いかを共通認識として</p>

	<p>持ちながら進めていきたいと思っています。</p> <p>それでは、最後に教育長からお願いいたします。</p>
<p>教育長</p>	<p>今の市長のご発言にもありましたが、ちょうど先ほどの定例教育委員会でも話題になったように、教育行政に限らず行政全体が縦割りで動いている部分が多いと感じています。市民や学校から見れば、担当部署はそれぞれ一生懸命取り組んでいるものの、部分最適ばかりが進んで全体最適になっていないという課題があります。これは市全体として考えていく必要があります、いかに部分最適を全体最適へとつなげていくかが今後の大きなテーマになるだろうと感じています。</p> <p>ここからは、これまでの議論を踏まえ、働き方改革について私を感じていることをまとめて申し上げます。</p> <p>まず、学校の働き方改革は一般企業と比較されることがありますが、性質が大きく異なる部分があります。学校は未来を担う子どもたちを育てる場であり、教師はその成長に深く関わる存在です。だからこそ、学校の働き方改革は単なる職場環境の改善ではなく、社会全体の将来に関わる課題であり、社会的な理解が不可欠だと考えています。</p> <p>今後、学校が持続可能な組織としてあり続けられるかどうかは、日本社会における教育の機能を将来にわたって維持・向上できるかという分岐点にあるとも言えます。</p> <p>今回策定した計画は、業務を管理・監視して単に業務量を減らすことが目的ではありません。教師の心身の健康という教育活動の土台を守り、人を守ることで学校という組織を持続可能にしていくための計画だと捉えています。</p> <p>この計画を実効性のあるものにするために必要な留意点として、いくつか考えています。</p> <p>まず、目的の明確化と共有です。次に、業務量の見える化と実態把握、そして業務配分の適正化です。学校には「忙しい人に仕事を頼む」という文化が根強く残っており、属人化からの脱却が必要です。また、健康確保措置に具体性を持たせること、早期発見・予防</p>

の視点を持つこと、管理職の役割と責任を明確にすることも重要です。さらに、持続可能性や実効性を確保するための運用も求められます。

業務を減らすことに対しては、「もっと子どもたちのためにやりたい」という思いからためらいを感じる教師もいるでしょう。戸田市には熱心で意欲的な先生が多く、それは大きな誇りです。しかし、心身が疲弊した状態では、子どもたちの小さな変化に気づくことはできません。教師が元気で笑顔で授業に向き合えることこそが、教育の質を支える最大の力だと考えています。

中央教育審議会の論点整理でも示されているように、重要なのは「働きがい」と「働きやすさ」の両立です。単なる在校時間の削減ではなく、教師が誇りを持って、学習指導要領の趣旨を実現しながら、子どもたちと生き生きと向き合える職場にすることが働き方改革の本質です。従来は学習指導要領、教員研修、働き方改革がそれぞれ部分最適で議論されてきましたが、今後は全体最適の視点で立体的に議論を進めていく必要があります。

また、委員からもご指摘があった業務の3分類による業務の精選、学校行事の見直し、部活動の地域展開など、地域や保護者の理解と協力が必要な場面もあります。しかし、これらはすべて、教師が子どもたち一人ひとりと向き合う「密度の高い時間」を確保するための決断だと考えています。

また、教師が働きがいを感じられるのは、自身の裁量を実感できることにあります。

本計画は、働き方改革を通じて教育の質を守り高めていくという責任を教育委員会が主体的に担い、市長部局を含めた「チーム戸田」で支えていくというメッセージでもあります。今後も学校や地域の皆さまはもちろん、本市には教育に大変熱心な菅原市長がいますので、市長を中心に市長部局との連携をさらに強化し、持続可能な教育環境、いわば教育のエコシステムをつくっていければと考えています。

市長

大変貴重なお話をいただきました。

	<p>教員のあるべき姿については、一般の私たちからすると、どうしても「先生ならやってくれるだろう」というイメージを持ってしまいがちです。たとえば、金八先生のようなドラマの世界を思い浮かべる方も多いと思いますが、今あらためて見返すと、働き方改革の観点ではほとんどがアウトになってしまうのではないのでしょうか。</p> <p>令和の時代にふさわしい、新しい教師像、いわば“令和の金八先生”のようなモデルを示すことができれば、社会全体の理解も進むのではないかと感じています。子どもたちに寄り添いながらも、家族との時間も大切にし、働きがいと働きやすさを両立している姿。そうしたイメージを社会に共有できるような取り組みができれば良いなと思います。</p> <p>ぜひ、令和の金八先生を目指していただきたいと思います。</p> <p>本日本日予定されていた議題はすべて終了しましたので、事務局にお返しいたします。</p>
事務局	<p>市長、教育長、委員の皆様ありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして「令和7年度第1回戸田市総合教育会議」を閉会とさせていただきます。なお、後ほど議事録を作成させていただきますので、記名押印のご協力をよろしくお願い申し上げます。</p> <p>本日は誠にありがとうございました。</p>

この議事録が正確であることを証明するため、議事録署名人は次に署名する。

令和8年3月30日

菅原文仁

戸ヶ崎 勤

仙波 寛一

木村 雅文

長道 修

浜田 美咲